

海運経営 の 国際化時代

—便宜船員の雇用実態を探る—

樋口健三 著



成山堂書店

海運経営の国際化時代

— 便宜船員の雇用実態を探る —

樋口健三 著

株式会社

成山堂書店

<著者略歴>

樋口健三（ひぐちけんぞう）

本籍 香川県
昭和12年 小樽高商卒業
同年 大日本電力株式会社入社
同16年 日本海汽船株式会社入社
同27年 シンガポール、ボンベイ、カラチ、ラングーン
各港視察
支店・本社（営業、企画）勤務
同45年 同社監査役
同48年 日本海商株式会社取締役業務部長
同50年 同社常務取締役

主なる著書：海運実務事典（成山堂書店）



海運経営の国際化時代
—便宜船員の雇用実態を探る—

定価はカバー又はケース
に表示してあります。

昭和54年 2 月25日	初版印刷	©1979
昭和54年 2 月28日	初版発行	
著 者	樋 口 健 三	
発行者	㈱ 成 山 堂 書 店	
	代表者 小 川 實	
印刷者	三 和 印 刷 株 式 有 限 公 司	

発行所 株式 会社 成山堂書店	東京都新宿区南元町 4 番51 (〒160) 成山堂ビル
	電話 03 (357) 5861 (代) 振替口座 東京 7-78174 番

3056—21511—3819

まえがき

わが国の海運は、明治の始め以来、日本経済・貿易の伸長と共に歩み、国民経済の担い手として海外の人的交流、物資の輸送に努力し、海洋自由の旗のもとに世界の海に雄飛したが、太平洋戦争は日本海運を完全に壊滅させ、多数の尊い人命と船舶を喪失し去った。

それから苦難の数年が続いたが、進取不撓の企業精神と労使の協力は、平和の日本に新しい海運の道を開き、鉄鋼始め各産業の支援と政府の適切な政策により、船舶を建造し国際海運として育っていった。折しも、国際経済の発展とわが国の高度の経済成長に伴い、海運の船腹は飛躍的に増大され、海運企業の経営、船腹構成も国際的多角的な形態をとるに至ったが、1973年のオイル・ショックで世界の経済が深刻な打撃を受け、その後長期に亘って低迷を続けている。

わが国の海運は、この厳しい環境下において、今後の新しい展開に備えて企業の一層の合理化を行って、経営体制を確立し、労使協力して国際競争力の回復と維持に最善を尽くすことが大切である。そして、世界海運の秩序と連帯感において国際経済の成長に寄与する、わが国の海運の発展に期待したい。

なお、一言申し添えれば、本書は国際海運の動向と、経済混乱時代における海運企業の存続に重点を置いて述べたので、あまり National Security との関係に言及しなかったことを諒とされたい。

昭和54年1月

樋口健三

◎ 辞典・法規 ◎

◆ 辞 典 ◆

英和海事大辞典	逆井編	8,500円
和英船舶用語辞典	東京商船大辞典編集委員会編	3,500円
英和航海用語辞典	四之宮編	2,800円
英和英機関用語辞典	升田編	2,200円
英和水産用語集	鶴田編	2,200円
和英気象用語集	田島編	1,500円
コンテナ用語辞典	コンテナ用語辞典編集委員会編	4,500円
改訂増補海運実務事典	樋口編	2,500円

◆ 法 規 ◆

海事法令①海運六法シリーズ	海運局監修	5,200円
海事法令②船舶六法シリーズ	船舶局監修	8,000円
海事法令③船員六法シリーズ	保安庁監修	6,500円
海事法令④海上保安六法シリーズ	保安庁監修	6,800円
海事法令⑤港湾六法シリーズ	港湾局監修	6,500円
学生用海事法規集	船員局監修	1,800円
実用海事六法	運輸省監修	2,500円
最新船員法及び関係法令	船員局編	850円
最新船舶職員法及び関係法令	船員局編	1,200円
最新海技試験科目細目	船員局監修	950円
安全法①船舶安全法及び関係法令シリーズ	船舶局監修	1,600円
安全法②船舶設備関係法令シリーズ	船舶局監修	1,000円
安全法③船舶構造関係法令シリーズ	船舶局監修	1,200円
安全法④船舶機関関係法規(改訂版)シリーズ	船舶局監修	950円
安全法⑤小型船舶・漁船安全規則及び関係法令シリーズ	船舶局監修	1,200円
安全法⑥船舶安全法及び同施行規則シリーズ	船舶局監修	1,200円
安全法⑦船舶機関規則(改訂版)シリーズ	船舶局監修	750円
最新海上運送法及び関係法令	海運局監修	1,800円
新海上衝突予防法(新旧対照本文)	海上安全法令研編	1,000円
図解・新海上衝突予防法	海上安全法令研編	1,500円
新海上衝突予防法及び関係法令	保安庁監修	1,500円
新海上衝突予防法及び同施行規則	保安庁監修	500円

和英対照海上交通関係法令集	保安庁監修	1,200円
英文海法集	東京海上本部編	6,000円
港則法施行令	海運局監修	250円
図解・海上交通安全法	保安庁監修	1,200円
海上交通安全法及び関係法令	保安庁監修	450円
最新船員労働関係法令集	船中労編	1,500円
国際海上労働条約及び勧告	成山堂編	300円
船員労働安全衛生規則及び関係法令	船員局監修	450円
船員労働安全衛生規則	船員局監修	100円
海難審判法及び関係法令	海難審判庁監修	450円
海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律及び関係法令	大臣官房監修	1,200円
〈法律・政令・省令〉三段対照海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律	保安庁監修	1,000円
加除式・水先法及び関係法令	水先法研編	1,800円
鋼船構造規程	船舶局監修	350円
改正船舶法及び関係法令	船舶局監修	1,200円
船員保険法及び関係法令	社保庁監修	1,600円
海難救助六法	保安庁監修	1,800円
油濁損害賠償保障法及び関係法令	海運局編	950円

◆ 法規解説 ◆

海事法規の解説	海法研編	2,500円
船舶法規の解説(登録制度等編)	上野著	1,400円
船舶法規の解説(安全検査編)	上野著	1,800円
海上衝突予防法論	藤崎著	3,500円
水先法の研究	藤崎著	8,000円
内航海運業法の解説	内法研編	1,800円
船員法総論	藤崎著	3,500円
船員法の研究	住田著	1,800円
海上衝突予防法の実務的解説	高塚著	2,000円
水先契約の研究	藤崎著	1,500円
海洋汚染防止法の解説	海洋汚染防止法研編	3,800円
海商法概論	藤崎著	2,500円
新訂版 船員法解釈例規	労基課編	4,000円

1972年国際海上衝突予防規則の解説	藤崎沢	2,300円	航海科海事法規	巻幡著	2,800円
海難審判の実務	今西著	3,500円	受験生の為の乙種航海科海事法規 (新訂版)	大塚著	980円
海難審判制度史	森島著	3,000円	乙種航海法規テキスト	福永著	650円
⊕ 受験法規 ⊕			航海法規解説	福井著	2,800円
海事法規要説 (上巻) (下巻)	藤崎著	3,000円 2,800円			

◎ 航 海 ◎

精説 天文航法 (上巻)	岩本 梅美著	2,800円	最新 乙種航海科読本 (上巻)	船長義 成協会編	750円
精説 天文航法 (下巻)	岩本 梅美著	3,000円	乙一航計算問題の解き方	磯上著	1,800円
精説 地文航法	松本著	2,800円	甲種航海科操船整備問題の集中対策	海技教 育研編	3,800円
天文航法	巻幡著	2,000円	11号・12号海図の説明と計算問題	原 著	1,500円
甲種船長の航海術	高城著	1,200円	限定救命艇手必携	船員法規 研究会編	300円
甲種船長の運用術	高城著	2,800円	端艇と帆走	三谷著	850円
甲種船長の海事法規	高城著	2,000円	信号とボート	海事研 究会編	150円
球面数学の基礎	黒田著	2,200円	海技試験 操船・整備の傾向と対策 シリーズ	海技研 編	850円
航海力学とその応用	高城著	2,500円	海技試験 載貨・力学・気象の シリーズ	海技研 編	2,500円
航海図説	依田著	750円	海技試験 天文・地文・電波航法 シリーズ	川本著	1,200円
新訂 天気図と気象	能沢著	1,800円	最新 ジャイロコンパスの要点 オート・パイロット	藤井著	1,500円
運用と操船	西阪著	2,500円	港内の操船	北原著	1,800円
百万人の天気図 (新訂版)	宮内 田島著	1,800円	ロープの扱い方・結び方	堀越 橋本著	650円
新しい海洋気象学	能沢著	2,800円	新訂 航海ハンド・ブック	航海H・B 編集委員会編	9,500円
新しい航海数学	能沢著	1,800円	海図の知識	宮名 坂戸著	3,800円
海洋気象講座	福地著	3,500円	電波航法の基礎	楡木著	1,800円
初等船舶理論	佐藤著	1,800円	解説アッカ	茂在著	450円
海図と計算問題 (改訂版)	原 著	1,800円	瀬戸内海の航法図	堀越 宮西著	2,500円
受験生の為の 航 海 術	大塚著	2,200円	相対運動と流航航法	桜井著	650円
受験生の為の 航海術算法	大塚著	1,500円	各種 ジャイロコンパスの解説(上)	吉中著	2,800円
受験生の為の 船舶運用術	沓名著	1,500円	各種 ジャイロコンパスの解説(下)	吉中著	2,500円
受験生の為の 地 文 航 法 (新訂版)	堀本著	650円	航海学 (上) (下) 辻・音成共著	2,600円	2,800円
受験生の為の 航 海 計 器	堀本著	1,500円	瀬戸内海の安全航法	大西著	3,800円
受験生の為の 海洋気象術 (改訂版)	滝川著	1,500円	航海計器①基礎航海計器 シリーズ	米沢著	2,200円
乙種航海科総まとめ (新訂版)	原 著	2,200円	航海計器②ジャイロコンパスと オートパイロット シリーズ	前畑著	3,500円
新訂 航海科テキスト	福永著	1,200円	航海計器③電波計器 シリーズ	西谷著	2,500円
乙一航受験指針	大塚著	2,200円	航海計器④船用電子工学概論 シリーズ	西谷著	2,800円

旗と船舶通信	三谷著	1,800円
船と旋回	志波著	800円
オメガ航法システム	田口著	2,800円
船位論	平岩著	1,200円
船体作業の実務	中沢・清水著	1,800円
船舶修繕の実務	山口著	2,800円
海難防止論	福島著	2,800円
船舶運用学の基礎	和田著	3,000円
レーダ映像の判読・航法と プロットイング	異子著	2,800円
航海応用力学の基礎	和田著	2,800円
V L C C に関する十章	V L C C 研究会著	2,800円
曳船とその使用法	山縣著	1,200円
航海レーダープロットイング用紙	中島著	1,500円
海図図式の解説	市名共著 坂戸共著	2,000円
船務基準⑤世界港湾事情	海技協会編	14,000円
船舶信号便覧	船舶信号研編	4,500円
航海英語のベスト解釈	西野著	2,000円

運航管理必携	旅客船協編	3,500円
天気図記入用紙	宮内省 田島著	30円
コンパス・カードの読み方	成山堂編	50円
実用レーダ航海	田辺著	1,800円
航海科図集	船員局 監修	3,800円
練習船実習ノート(航海科)	運航技術 研究会編	2,300円
レーダプロットイングノートと その解説	大本著	600円
位置決定用図(試験用)	成山堂編	50円
試験用海図(11号・12号)	成山堂編	各50円
海上衝突予防法(第2章) 燈火及び形象物の図解ダスター	海難防止協編	200円
昭和48年練習用天測暦	航技研編	550円
航海英語	商船高等 英語研編	850円
英文新しい航海日誌の書き方	四之宮著	1,200円
英文航海日誌に強くなる本	三谷著	950円
実用英文航海日誌記載要領	加藤師岡著	1,200円
百万人のエレクトロニクス	電子工 学研編	750円
船員実務英会話	郵船海 務部編	1,500円

※ 機 関 ※

船用機関データ・ブック	船用機 関研編	5,500円
金属材料の基礎	長崎著	2,500円
船用補機の解説	重川著	3,500円
海技試験シリーズ 内燃機関の傾向と対策	青木著	3,500円
海技試験シリーズ 蒸気タービン の傾向と対策	青木著	1,800円
海技試験シリーズ 機関算法の傾向と対策	山下著	1,200円
海技試験シリーズ 設計製図の傾向と対策	山下著	1,800円
海技試験シリーズ 甲種執務一般	明星・富田 和星・神田	2,800円
船用機関の自動制御	葛西著	2,800円
ディーゼル機関の自動制御	葛西著	3,500円
船用ボイラテキスト	辻著	2,000円
新訂 船用交流電気(上下)	青木著	上3,000円 下2,600円
船用ディーゼル機関教範	長谷川著	3,000円
船用冷凍機とその取扱い	富岡著	1,600円

熱力学と冷凍機	有田著	1,500円
初等冷凍装置	山田著	1,200円
直流電気テキスト	青木著	650円
交流電気テキスト	青木著	850円
補助ボイラ及びその附属装置	矢井田著	950円
実用 燃料油と潤滑油	明星・富田 染合	1,800円
初等 燃料油と潤滑油 (改訂増補版)	竹下著	950円
船用燃料・潤滑油ベスト管理	田付著	3,500円
受発生の為の 機関術算法(新訂版)	折目著	1,200円
受発生の為の 乙種執務一般	海教研編	850円
船用機関の故障と応急処置	黒沢著 近重	1,600円
船用補機と管装置	山田著	1,500円
熱力学概論	黒沢著	2,200円
過給機の知識	稲葉著	950円

油圧シリーズ① 油圧技術入門	羅川著	2,800円	最近10か年 乙種機関科	電気の基本問題と解答	中村著	1,800円
油圧装置の解説	中村・香良共著	2,500円	新訂乙種機関科受験指針(上巻)	升田著	1,200円	
弱 電 入 門	J L 編 海事部	2,200円	新訂乙種機関科受験指針(中巻)	升田著	1,000円	
大形ディーゼル主機関の事故と対策	機関士 協会編	750円	新訂乙種機関科受験指針(下巻)	升田著	1,400円	
船用ディーゼル発電機関の事故と対策	機関士 協会編	1,500円	乙種内燃機関の総整理	青木著	3,800円	
機関室無人化船の現状と将来	機関士 協会編	600円	乙種機関科読本(上巻)	杉田著	1,500円	
自動化機器の故障と対策	機関士 協会編	2,500円	全科乙一機テキスト(上巻)	海教研 編	1,800円	
船用電機の理論と実際(上)	針本著	3,500円	英文 和文	新しい機関日誌の書き方	斎竹著	1,200円
船用電気・電子工学の基礎(上)	宮内著	2,700円	練習船実習ノート(機関科)	運航技術 研究会編	2,300円	
船用電気・電子工学の基礎(下)	宮内著	2,800円	機関実務の要点	中島著	1,500円	
船用補機の基礎	重川著	2,800円	機関英語のベスト解釈	西野著	1,500円	
船用ボイラの基礎	西野著	4,800円	機 関 英 語	商船高専 英語研編	850円	
船用機関の基礎知識	青木著	3,800円	実用 英文機関日誌記載要領	岸本 大橋著	1,200円	
原子力船工学	竹村著	3,800円	船舶ノシステム概論	小畑著	2,500円	
基礎力学	田中著	1,800円	◇ 造 機 ◇			
実用機械工作	香良著	2,800円	推進軸系標準	関東造 機研編	2,800円	
船用プロペラと軸系	隈元著	2,200円	中小型プロペラ設計法と参考図表集	機尾著 矢崎	2,800円	
機関科図集	船貝局 監 修	3,800円	◇ 造 船 ◇			
最新図 学	小畑著	1,800円	基本造船学(船体編)	上野著	2,200円	
乙一機計算問題の解き方	坂井著	1,800円	造船力学	辻 著	2,200円	
基本機関算法	西野著	1,800円	新しい木船の造り方	村松著	650円	
初等ディーゼル機関	馬沢著	2,000円	新しい小型鋼船の造り方	村上著	1,600円	
小形船エンジン読本	藤田著	1,500円	船舶の速力と馬力の概算法	橋本著	950円	
機械工作法(上巻)	小畑著	2,800円	練習船青雲丸一計画から竣工まで	運航研 編	3,500円	
最新機関科テキスト	砂川著	2,200円	内航タンカーの建造企画から竣工まで	田中著	2,000円	
機関算法に強くなる本	砂川著	2,500円	造船統計要覧	船舶局 監 修	1,500円	
初歩の機関算法	機長養 成協編	750円				

◆ 海事一般 ◆

◇ 海 運 ◇			海運同盟入門	塚本著	2,200円
海 運 論	東海林著	2,800円	世界海運史	黒田著	1,800円
新訂海運の概要	岡庭著	2,200円	石油類比重・容積・度量衡換算表	本莊著	2,800円
ボナー法と国際海運カルテル	飯田著	500円	長距離フェリーの診断	安原著	950円
荷主のための 海運運賃同盟	内山著	650円	海陸複合輸送の研究	飯田著	1,500円

最新荷役実務	運技研編	2,200円	液体貨物容積重量計算表	海事検定協会編	1,500円
海上貨物輸送の実務	海上貨物輸送実務研究会編	4,800円	中 港 湾 中		
船荷の積付実務	三橋著	1,200円	港湾運送と港湾管理の基礎理論	住田著	1,200円
LPG運搬船	岩下著	550円	流通革新と埠頭経営	港湾経済学会編	1,250円
コンテナへの積付実務	山新編	1,200円	現代港湾の諸問題	港湾経済学会編	3,000円
国際オイルタンカーとターミナル安全指針	タン協訳	1,800円	輸送システムの変革と港湾	港湾経済学会編	1,800円
冷凍コンテナ便覧	上村著	3,500円	港湾と地域経済・社会	港湾経済学会編	2,500円
ラッシュ船の研究	加藤著	2,200円	地方港湾の役割と課題	港湾経済学会編	2,500円
最新コンテナリゼーション総覧	コンテナ協会編	15,000円	港湾と物価問題	港湾経済学会編	2,200円
便宜置籍船	木畑著	2,200円	港湾経営と財政問題	港湾経済学会編	2,300円
マルシップと便宜置籍船	木畑著	2,500円	港湾・港湾流通の実務	運輸港湾産業研究室編	750円
物流事業	大塚著	1,300円	港湾情報産業の実務	港湾総研編	980円
海運経済論	織田著	3,500円	港湾運送事業法ノート	森山著	850円
海上保険総論	亀井著	2,000円	港湾運送例規集	港湾局・港政課編	1,800円
英文テレックス・電報の書き方	上村著	1,800円	港湾運送事業法論	市川著	1,600円
コンテナの輸送実務	松本著	950円	マリナ	西田著	950円
国際海上コンテナ輸送をめぐる12章	高村編	1,500円	港湾研究①港湾総論	北見著	3,800円
コンテナ輸送の理論と実際	飯田著	1,500円	港湾研究シリーズ②港湾発達史	北見編	未定
コンテナ輸送の原点	飯田著	1,800円	港湾研究シリーズ③港湾経済	柴田著	1,500円
船舶の衝突と海上保険	今泉 共著 坪井 訳	2,500円	港湾研究シリーズ④港湾経営	北見 共著 山本 共著	未定
外航タンカーの営業実務	タンカー実務研編	3,500円	港湾研究シリーズ⑤港湾産業	喜多村著	1,500円
外航タンカーの運航実務	稲村著	4,000円	港湾研究シリーズ⑥港湾労働	徳田著	未定
タンカーの火災とその対策	今井著	1,600円	港湾研究シリーズ⑦港湾社会	北見 共著 荒木	2,500円
内航タンカー実務	田中・植竹 坂巻 著	850円	港湾研究シリーズ⑧港湾行政	和泉著	2,200円
内航タンカー安全必携	西本著	2,200円	港湾研究シリーズ⑨港湾と地域	枉 編	未定
内航タンカー安全指針	内タン組合編	1,800円	港湾研究シリーズ⑩港湾流通	北見 共著 喜多村編	2,200円
内航タンカーM丸	田中著	1,500円	都市と臨海部開発	北見 共著 奥村編著	2,500円
流出油事故の対策と処理	タンカー油濁研著	3,500円	中 水 産 中		
各国入出港事務手続案内	J. L. 編 海務部	4,500円	日本漁具・漁法図説	金田著	9,800円
海運実務① 船荷証券の 実務的解説	大木著	1,500円	実用漁業法詳解	金田著	6,000円
海運実務② 海上運送貨物損害 賠償の実務的解説	大木著	1,600円	母船式工船漁業	葛城著	850円
海運実務③ 用船契約の 実務的解説	大木著	3,000円	漁船船員の栄養と調理	水産庁 監 修	1,200円
関税制度入門	津田著	980円	実用トロール漁法	和田著	2,500円
最新輸出の実務とコンテナ輸送	山本著	3,500円	やさしい漁家経営簿記	浦 著	1,800円
載貨と海上輸送	運航技術研編	3,800円	日本漁船図集	津谷著	6,500円

◇ 船 員 ◇

海難の処置と処理	寺島著	1,500円
海難の救助と処置	中山著	350円
船員政策と海員組合	笹木著	650円
日本海運と船員	土井著	300円
海上労働講座	土井著	550円
船員労務管理入門	船員労務管理研究会編	950円
船員の労務と管理	杉藤 共著	980円
海上警備と情報の理論	飯田著	800円
技術革新と船員労働	笹木著	2,800円
船の労働衛生	西部著	2,500円

◇ 文 芸 ◇

風 浪 ー 全日海おぼえ書ー	山口著	480円
ヘイカチの航海記	今井著	950円
海の伝説(瀬戸内海を中心として)	西尾著	1,200円
海難随想	辻 著	350円
月曜随想	海事新聞社編	300円
港 みなと ミナト	斎藤著	950円
海上労働運動夜話	村上著	780円
アラビアの海は燃えている	大前著	550円
海上社会史話	金指著	850円
住田正一想い出集	編集委編	850円
グッドモーニング キャプテン	竹田著	1,200円
大衆の健在	中山著	1,200円
主観世界への転回	中山著	2,000円
一滴一粒のいのち	おかべ著	450円
南太平洋処女航海記	愛須著	1,800円
雷跡右30度ー特攻船団戦記ー	宇野著	1,200円
海の捜査官	徳田著	1,500円

◇ 海事史 ◇

複製版 海事史料叢書 (全20巻)	住田編	12万円
続 海事史料叢書 (第1巻)	海事史学会編	各8,000円
(第2巻)		

◇ その他 ◇

海技試験必勝法	末永著	750円
初等海事英語講座	松沢著	400円
小型船舶操縦士海技試験(免許)申請用紙	(A),(B)	各100円
海技受験申請用紙	成山堂編	100円
全国船員宿泊施設案内	全国船員厚生施設協編	850円
衛生管理者ハンドブック	小者・奥野山村 共著	1,500円
船内食品の貯蔵と管理	天貝著	1,500円
海事日英仏西会話集	木村・館脇 亀井 著	950円
船舶煙突マーク集	保安庁監 修	1,500円
船員日記	成山堂編	1,200円
船舶読本	船員局監 修	1,500円
写真でみる世界の商船	木俣著	1,800円
帆船日本丸	安藤著	6,800円
日本丸帆走写真	成山堂編	500円
船員への道	船員局監 修	850円
自衛官への道	防衛協力会編	800円
海上保安官への道	保安庁監 修	1,000円
国立商船高等専門学校への道	文部省監 修	650円
水産高等学校への道	水産高校校長会編	550円
航空従事者への道	航空局監 修	950円
海員学校への道	船員局監 修	500円
海事代理士試験の手引	海代編 土師 著	1,800円
レクリエーションの手引	渡洋会編	380円
ヨット専科	関根著	3,500円

◇ 航海科試験問題 ◇

◇ 船通・小型 ◇

最新海事概要(海と船の常識)	堀木著	1,200円
船舶通信士試験問題解答800題(44/10-48/4)	堀木著	1,200円
四級小型船舶操縦士の試験問題と解答	高橋著	1,200円

三級・四級小型船舶操縦士テキスト	小橋編	1,800円
一・二級小型船舶操縦士試験問題及び解答	高橋著	1,200円

◇ 丙種航海科 ◇

丙種航海科テキスト	船長養成協編	1,200円
-----------	--------	--------

材料費・製作費等の高騰により
定価変更の場合もあります

成山堂発行図書

総合図書目録
無料贈呈

最近3か年①丙航800題【問題と解答】 船長養成協編 1,500円
丙種航海科筆記受検問答 船長養成協編 1,800円

☆ 乙種航海科 ☆

最近3か年⑦乙船長800題【問題と解答】 航技研編 1,800円
最近3か年⑧乙一航800題【問題と解答】 船長養成協編 2,000円
最近3か年⑨乙二航800題【問題と解答】 船長養成協編 2,500円

撃破シリーズ ①乙長航海術1,400円 ②乙長運用術1,200円 ③乙長法規1,000円 ④乙一航海術2,700円 ⑤乙一運用術2,300円 ⑥乙一法規2,000円 ⑦乙二航海術2,200円 ⑧乙二運用術1,700円 ⑨乙二法規1,600円

乙種航海科口述試験の突破 船長養成協編 1,800円

☆ 甲種航海科 ☆

最近3か年①甲船長800題【問題と解答】 航技研編 1,700円
最近3か年②甲一航800題【問題と解答】 航技研編 1,600円
最近3か年③甲二航800題【問題と解答】 航技研編 1,500円

最近10か年別甲種航海術問題の徹底研究 航技研編 3,000円

最近10か年別甲種運用術問題の徹底研究 航技研編 3,000円

最近7か年別甲種航海法規問題の徹底研究 航技研編 1,800円

最近7か年別甲種航海英語問題の徹底研究 航技研編 2,200円

最近10か年甲船長問題解答総まとめ 航技研編 3,500円

最近10か年甲一航問題解答総まとめ 航技研編 3,000円

最近10か年甲二航問題解答総まとめ 航技研編 2,500円

甲種船長口述試験の突破 堀越孝・森井他共著 4,500円

甲種航海科口述試験の突破 堀越孝・森井他共著 4,800円

☆ 甲種年度版(甲種航海科試験問題解答800題) ☆

(40年版～50年版各種あります)

51年版(％～％) 52年版(％～％) 航技研編 各1,800円

53年版(％～％) 航技研編 各1,800円

☆ 甲種速報版(甲種航海科試験問題解答800題) ☆

(49年以前も各種あります)

50/7.10, 51/2.4.7.10, 52/2.4 航技研編 各550円

52/7.10 航技研編 各650円

※ 機関科試験問題 ※

☆ 丙種機関科 ☆

丙種機関科テキスト(増補改訂版) 機長養成協編 750円

丙種機関科筆記受検問答 青木著 950円

最近3か年①丙機800題【問題と解答】 機長養成協編 1,200円

☆ 乙種機関科 ☆

乙種機関科口述試験問題解答800題 機長養成協編 450円

最近3か年⑩乙機長800題【問題と解答】 機長養成協編 1,600円

最近3か年⑪乙一機800題【問題と解答】 機長養成協編 1,200円

最近3か年⑫乙二機800題【問題と解答】 機長養成協編 1,800円

撃破シリーズ ⑩乙長機関術Ⅰ1,200円 ⑪乙長機関術Ⅱ1,100円 ⑫乙長機関術Ⅲ執務一般1,400円 ⑬乙一機関術Ⅰ1,200円 ⑭乙一機関術Ⅱ1,100円 ⑮乙一執務一般800円

⑯乙二機関術Ⅰ1,200円 ⑰乙二機関術Ⅱ1,000円 ⑱乙二執務一般800円

乙種機関科口述試験の突破 明星・高田・神田・森本共著 1,800円

☆ 甲種機関科 ☆

最近3か年④甲機長800題【問題と解答】 機長養成協編 1,700円

最近3か年⑤甲一機800題【問題と解答】 機長養成協編 1,600円

最近3か年⑥甲二機800題【問題と解答】 機長養成協編 1,500円

最近7か年甲種機関術Ⅰ問題の徹底研究 機長養成協編 2,000円

最近7か年甲種機関術Ⅱ問題の徹底研究 機長養成協編 1,800円

最近7か年甲種機関術Ⅲ問題の徹底研究 機長養成協編 2,200円

最近7か年甲種機関英語問題の徹底研究 機長養成協編 2,000円

甲種機関科口述試験の突破 明星・高田・神田共著 2,500円

☆ 甲種年度版(甲種機関科試験問題解答800題) ☆

(40年版～50年版各種あります)

51年版(％～％) 52年版(％～％) 航技研編 各1,800円

53年版(％～％) 航技研編 各1,800円

☆ 甲種速報版(甲種機関科試験問題解答800題) ☆

(49年以前も各種あります)

50/7.10, 51/2.4.7.10, 52/2.4 機長養成協編 各550円

52/7.10 機長養成協編 各650円

目 次

1. 日本海運の形成時代	1
1.1 日本海運の黎明	1
1.2 日本海運発展の萌芽	2
1.3 国際海運への進出	3
1.4 海運の成長	4
1.5 海運の振興政策	4
1.6 日露戦争と海運	5
2. 日本海運の発展時代	11
2.1 欧州第1次大戦	11
2.2 海運躍進の背景	12
2.3 昭和5年の海運大不況	13
2.4 先進国のブロック化時代	15
2.5 太平洋戦争の勃発	17
3. 日本海運の再出発	19
3.1 終戦と海運	19
3.2 海運再建への路線	20
3.3 第2次大戦後の世界の一般状勢	22
3.4 海運企業の再建整備	24
4. 世界経済と海運	27
4.1 国際通貨状勢と世界経済	27
4.2 石油危機以後の世界経済	28
4.3 世界の海上荷動き	31

4.4	世界の船腹	38
5.	日本経済と日本海運	43
5.1	日本経済の現状と産業構造	43
5.2	日本の貿易と海上輸送	47
5.3	輸出入貨物と邦船の積取状況	51
5.4	貿易の展望と海運市況	54
6.	日本海運の船腹構成	57
6.1	保有船腹	57
6.2	外国用船の概説	59
6.3	わが国の外国用船の特徴	61
6.4	外国用船のメリットとデメリット	63
7.	海運経営の現状	69
7.1	不況下の海運経営	69
7.2	企業の損益状態	71
7.3	日本船と外国用船との運航船腹構成	72
7.4	海運市況の見透しと経営計画	74
7.5	政府の海運助成制度（建造・償却）	78
8.	海運経営の国際化	79
8.1	国際連帯感	79
8.2	技術革新	80
8.3	国際的諸問題	82
9.	船員（外航船）関係	85
9.1	雇用形態	85
9.2	船員給与と船員費の構成	87

9.3	日本船員と外国船員の船員費	88
9.4	船員費の合理化	91
9.5	日本船員福利雇用促進センター	92
10.	便宜置籍船	97
10.1	便宜置籍船の概況	97
10.2	便宜置籍船と I T F	100
11.	東南アジアの船員	107
11.1	外国用船の配乗船員	107
11.2	船員の雇用方法	109
11.3	職名の呼称	113
11.4	雇用契約	118
11.5	給与と就労条件	143
11.6	船 員 費	151
12.	外国船の保船管理	153
12.1	MANNING契約	153
12.2	保船管理	163
	参考文献	165

1. 日本海運の形成時代

1.1 日本海運の黎明

19世紀始めまでの重商時代が終り、欧米では産業資本主義の時代となった1853年（嘉永6年）7月、東インド艦隊の司令官のペリーが旗艦ミシシッピ号に乗艦して、3隻の軍艦を率いて浦賀に入港し、国書をもって開港を要求した。幕府は翌年再度来日したペリーと日米和親条約を締結した。ここにわが国は、1639年（寛永6年）より215年間の鎖国を打ち破り、近代国家への脱皮に踏み切ったのである。

1855年（安政2年）ハリスが駐日総領事として下田に来任し、玉泉寺に総領事館を置いた。1958年6月將軍徳川家定に大統領の親書を呈し日米修好通商条約（治外法権を認める、関税自主権は認めない等不平等なものだった。）が調印された。イギリス、オランダ、ロシア等の国もこれに追随した。

当時米国は支那と貿易を行い南阿廻りで、茶、生糸、陶器類を輸入していた。また太平洋の捕鯨事業も年々発達し、中継港として日本の門扉をたたいて開港通商を求めたのは自然の理である。

幕府は1859年（安政6年）に横浜港を、1867年（慶応3年）には兵庫港（神戸）を開港した。1859年には威臨丸で勝麟太郎、木村芥舟以下約百名の有為の人材を米国に派遣し、新時代の先駆者としての研養を積ませた。日本百年の計をなすのは人材である。それを当時履践したのはさすがであった。

その後1867年（慶応3年）には海軍兵学校が創設され、造船事業も1854年（嘉永7年）に浦賀に造船所を、1856年（安政3

年)に石川島, 1860年(文久元年)に長崎に, 文久2年には神戸, 1866年(慶応2年)には横須賀と次々と将来の船舶の新造と修繕に備えて造船所を建設したのである。

海運の育成については幕府と維新政府の引継は当を得たものであった。

明治政府が誕生すると, 富国強兵を目標とし, その達成には日本の貿易の発展が不可欠であり, それを支える海上輸送力の重要性を欧米の先進諸国に学び, それを着実に実行した。

1869年(明治2年)通商司が設置され, 横浜, 東京には貿易商社, 為替会社や通商会社が続々設立され, その内から将来の財閥が出現し, 金融機関として成長するのであるが, 時代は正に資本主義経済の創草期を迎えたのである。明治3年には太政官布告として西洋型鋼船の所有を勧奨し, また保護を与え, 通商会社は商業の発展と海運の発達に必要な商用蒸汽船の買入金を融通する等, 明治維新政府当事者の達観と民間企業家の商才と熱意は打って一丸となって日本海運の夜明けをつげたのである。

1.2 日本海運発展の萌芽

日本経済の路線は全方位に展開し, その中にあってわが国の海運事業は順調に振興され, 海外進出の夢がいよいよ達せられようとするのであるが, それが現実となったのは1875年(明治8年)で, 近年の海運としてわが国最初の外国航路が開設された記念すべき年である。

日本郵船の前身である郵便汽船三菱会社が, 政府の要請もあり周到な準備と成算をもって, 1875年(明治8年)2月に2千トン型貨客船3隻と1千トン型貨客船1隻をもって上海/横浜線の定期航路を開設したのである。当時は米国の海運会社が桑港/支那の太平洋航路就航船を横浜に寄港させていたのに割込

んでいったのであるから、両社の運賃競争が熾烈を極めたのは当然で、覚悟の上とはいえ両社の損失は大きく、その努力は並大抵でなかったと推測されるが、日本政府の支援と旺盛な企業精神により初志は貫徹されて、1875年（明治8年）10月米國船社との和議が成立し、相手の会社の使用船と施設を買取り定期航路の地盤を確保したのである。

その後三菱の独占状態を他の船会社が不満とし、政府は三菱に対抗する共同運輸会社をつくらせ、両者が激しい競争のすえ円満に合併の話し合いが成立し、1885年（明治18年）日本郵船が誕生した。

それより前の1877年（明治10年）、西南戦争のとき軍隊の輸送で大阪を中心に海運業がにぎわい、それらの会社が集まって1884年（明治17年）1つの会社を造った。それが大阪商船会社である。

ここに日本海運の双壁が生まれ二本の柱が立てられたのである。

1.3 国際海運への進出

日本郵船は積極的に海外航路を開拓し、上海、天津、浦汐、仁川、マニラ等の近海航路を開き外航進出の機会をうかがっていた。豊富な人材と諸航路運営の経験と実績をもって、1893年（明治26年）日本／ボンベイ線に社船2隻をもって進出、定期航路を開いたが、外国3社の航路同盟とせり合いとなり巨額の損失と重圧をうけた。しかしこれに屈することなく、政府の支援と荷主筋の協力を得て苦戦を続けた結果、条件付きで航路同盟への加入が承認されたのである。その間の闘争は3年間続いたが、これは民間企業だけの努力と財力では到底抗しきれものではなく、政府の理解と強いあと押しがあって達せられたといえる。1896年（明治29年）日本／ボンベイ航路は政府より特定